

## 新収蔵資料抄

## 中国漢字学講義

裘錫圭／著 稲畑 耕一郎、崎川隆、荻野友範／訳 東方書店 2022.6  
本文 562p 22cm 821.2/ネ 26 2022.9.2 受入 定価 6,300 円＋税

※ 目次情報、著者紹介は裏面掲載



最寄り図書館に取り寄せ可

## 訳者紹介

稲畑 耕一郎(いなはた こういちろう)

早稲田大学名誉教授、南京大学文學院客員教授。

1948年三重県生まれ。早稲田大学第一文学部中国文学専攻卒業、同大学院博士課程満期退学。早稲田大学文学学術院教授、同大学中国古籍文化研究所所長、北京大学考古系訪問学者、南開大学東方芸術系客員教授、北京大学中国古文獻研究センター客員教授などを歴任。専門は中国古典学。

著書に『一勺の水—華夷跋涉録』(二玄社、1987)、『神と人との交響楽—中国仮面の世界』(農文協、2003)、『境域を越えて—私の陳舜臣論—』(創元社、2007)、『中国皇帝伝』(中央公論新社、2013)、『出土遺物から見た中国の文明—地はその宝を愛します』(朝出版社、2017)、監訳書に『図説 中国文明史』(全10巻、創元社)、『(北京大学版)中国の文明』(全8巻、朝出版社)ほか多数。

崎川 隆(さきかわ たかし)

吉林大学考古学院古籍研究所教授、同大学「古文字與中華文明傳承發展工程」兼任教授。

1973年東京都生まれ。慶應義塾大学文学部民族学考古学専攻卒業、同大学院を経て吉林大学古籍研究所に留学し、博士(歴史学)学位を取得。その後、コロンビア大学唐氏古代中国研究センター研究員、同大学東アジア言語文化学部客員准教授などを歴任。専門は中国古文字学、中国考古学。

著書に『賓組甲骨文分類研究』(上海人民出版社、2012)、『吉林大学蔵甲骨集』(共著、上海古籍出版社、2021)、共訳書に『図説 人類の歴史・第5巻—旧世界の文明』(朝倉書店、2004)、『図説 中国文明史(殷周巻)』(創元社、2007)などがある。

荻野 友範(おぎの ともり)

慶應義塾大学高等学校教諭、同大学文学部非常勤講師、早稲田大学中国古籍文化研究所招聘研究員。

1974年福島県生まれ。慶應義塾大学文学部中国文学専攻卒業、同大学院修士課程を経て、早稲田大学大学院文学研究科博士課程に進む。その間に吉林大学古籍研究所に高級進修生として留学し、帰国後に博士(文学)学位を取得。早稲田大学文学学術院、慶應義塾大学文学部などで非常勤講師を務める。専門は中国古代文学。

論文に「詩」と「志」—民国期以来の「詩言志」論、「志」の展開—『尚書』舜典篇「詩言志」の注解をめぐる」など、訳書に『図説 中国文明史(春秋戦国巻)』(創元社、2007)、『図説 中国文明史(殷周巻)』(共訳、創元社、2007)などがある。

## 資料概要

『中国漢字学講義』は、著者・裘錫圭が北京大学中文系で行っていた漢字学の講義原稿を基に著された。原著は中国の商務印書館刊の『文字学概要』で、同書は1988年に出版されて以来、30年以上経った今も中国で漢字学テキストとして読み継がれている。

日本語訳としては過去に早稲田大学中国古籍文化研究所のもの(2007年)があるが、それ以来の改訳、日本語版で市販は今回が初となる。そもそも文字とは何かから始まる体系的・本格的な漢字学の階梯でありながら、語りかけるような文体で親しみやすい学術書となっている。

本書は、文字が形成される過程から始まり、漢字固有の性質を特定し、その形成と発展、形体の変遷を詳述した上で、漢字の基本類型に沿って例を挙げる構成をとる。本書における漢字の基本類型は、①表意文字、②形声文字、③仮借の3類型とする「三書説」である。

文字の形成過程の最終段階は、完全に言語を記録できる文字体系となることだが、漢字の場合、形成時期は夏の時代(紀元前1,600年前後)より前に遡ることはないと考えられ、著者はその時代を殷代とする。

殷代後期～秦代(紀元前14世紀から紀元前3世紀末)の期間は「古文字の段階」であり、始皇帝の全中国統一後、急速に文字統一の事業が進められた結果、秦系文字の正体が小篆(しょうてん)となり、俗体は隸書となった。しかし、この小篆による文字統一からほどなく、小篆にとって代わって隸書が主たる字体となる。この「隸書・楷書段階」は漢代に始まり、現代に至っている。

現在一般に用いられている漢字の数は5,000字から6,000字だが、2010年に中国で出版された『漢語大辞典』(第二版)には、60,370字が収録されているという。本書で例示される漢字はその一部分に過ぎないが、訳者あとがきに記されているように、全書を通して漢字という文字をどういふものとして捉えるかという著者の考え方が一貫して示され、中国の文字世界を理解する上でのメソッドは明快である。

本書を読むと、ある漢字を誰もが同じ読みをし、そこから同じ意味を汲み取れる現代日本の状況がかえって不思議にも感じる。長年月をかけた文字や書体の統一の取組の恩恵を感じざるを得ない。

漢字学の学徒はもちろん、漢字の古音に対する理解が進むことや、楷書・行書・草書の書体が確立していく中で書聖・王羲之などの功績も知れることから、中国語学習者や書家各位にも一読を勧めたい。

本紙は、県立図書館が新たに所蔵した資料(図書資料・視聴覚資料)から、ぜひご利用いただきたいものを厳選してご紹介するものです。これらの資料は、禁帯出資料を除き、最寄りの図書館に取り寄せできます。

なお、本紙の内容はWebにも掲載しています。ご覧の際は右のQRコードをご利用ください。

また、内容の誤り等、お気づきの点があればお知らせくださるようお願いいたします。



目次

第一章 文字形成の過程

- 第一節 文字の定義
- 第二節 文字形成過程の推測

第二章 漢字の性質

- 第一節 二つのレベルの符号
- 第二節 字符の表意・表音の役割から見た漢字体系の性質
- 第三節 字符の表す言語構造の階層から見た漢字体系の性質
- 第四節 漢字の形式上の特徴

第三章 漢字の形成と発展

- 第一節 漢字形成の問題についての議論
- 第二節 漢字の発展過程における主要な変化

第四章 形体の変遷（上）— 古文字段階の漢字

- 第一節 殷代文字
- 第二節 西周春秋文字
- 第三節 六国文字
- 第四節 秦系文字
- 第五節 隸書の形成

第五章 形体の変遷（下）— 隸書・楷書段階の漢字

- 第一節 隸書・楷書段階の文字の形体を研究するための資料
- 第二節 漢代隸書の発展
- 第三節 隸書の篆書字形に対する改変
- 第四節 漢代の草書
- 第五節 新隸体と初期の行書
- 第六節 楷書の形成と発展および草書と行書の変遷

第六章 漢字の基本類型の区分

- 第一節 六書説

第二節 三書説

- 第三節 三書に入れることのできない文字

第七章 表意文字

- 第一節 表意文字の分類とその例
- 第二節 語義研究における字形の役割

第八章 形声文字

- 第一節 形声文字が発生した経緯
- 第二節 多声と多形
- 第三節 省声と省形
- 第四節 形旁と声旁の位置
- 第五節 形旁の表意の役割
- 第六節 声旁の表音作用
- 第七節 声旁と字義の関係

第九章 仮借

- 第一節 本字と仮借
- 第二節 借りられた字の意味が仮借義と関連する現象
- 第三節 一語に複数の字を用いることと一字が複数の語を表す現象
- 第四節 仮借にかかわる字音の問題
- 第五節 漢語文研究における仮借にかかわるいくつかの誤った傾向

第十章 異体字・同形字・同義換読

- 第一節 異体字
- 第二節 同形字
- 第三節 同義換読

第十一章 文字の分化と合併

- 第一節 文字の分化と文字の役割を分散させるその他の方法
- 第二節 文字の合併

第十二章 字形と音義の錯綜した関係

- 第一節 一形多音義
- 第二節 一語多形

第十三章 漢字の整理と簡略化

図版

初版前言（裘錫圭）

修訂本前言（裘錫圭）

《日本語版》序文（裘錫圭）

旧訳版あとがき（稲畑耕一郎）

訳者あとがき（稲畑耕一郎）

文字索引 字音／総画

著者紹介

裘 錫圭（きゅう しゃくけい）

復旦大学出土文献と古文字研究センター教授。1935年、上海市生まれ。復旦大学歴史系に在学中、胡厚宣教授の甲骨文の授業を受けて文字学の世界に関心を持ち、卒業後、胡教授の研究生兼助手となる。胡教授の中国科学院（現在の中国社会科学院）歴史研究所第一所（先秦史）転任に従って北京に移り、同研究所の研究生修了とともに北京大学中文系に助教として配属。北京大学では、朱德熙教授に師事。璽印や陶文、帛書、楚簡、漢簡などを利用しての研究へと進む。「馬王堆漢墓帛書」「銀雀山漢墓竹簡」「曾侯乙墓」「望山楚墓竹簡」「尹湾漢墓簡牘」「郭店楚墓竹簡」などの文字資料の整理と校釈のプロジェクトに参加して指導的な力を発揮。2005年、復旦大学から傑出教授として招かれる。

著書に『裘錫圭自選集』（河南教育出版社、1994）、『文史叢稿』（上海遠東出版社、1996）、『中国出土古文献十講』（復旦大学出版社、2004）、『裘錫圭学術文集』（全6巻、復旦大学出版社、2012）など。